

令和6年度 第1回成田市公民館運営審議会 会議概要

1. 開催日時

令和6年7月26日（金） 午後2時から午後3時

2. 開催場所

成田市赤坂1丁目1番地3

成田市中心公民館 2階視聴覚室

3. 出席者

（委員）

高木麻由子会長、重廣悦子副会長、佐々木英夫委員、千葉秀幸委員、
山谷友美委員、天野義夫委員、小山美奈子委員、多田初枝委員、
長澤成次委員

（事務局）

関川教育長、小川教育部長、藤崎教育部担当次長、菅井公民館長、
小川主幹兼事業係長、寺里管理係長、三浦副主幹、田口主査、

4. 議事

（1） 会長及び副会長の選出について

（報告）

（1） 令和5年度公民館主催事業の報告及び令和6年度公民館主催事業の進捗
状況について

（2） 令和5年度公民館主要工事等の報告及び令和6年度公民館主要工事等の
進捗状況について

（3） 第42回成田市公民館まっりの開催について

5. 議事（要旨）

【議事（1）について】

要旨：成田市公民館運営審議会委員の任期満了に伴い、成田市公民館の設置及
び管理に関する条例第20条第2項に基づき、委員の互選により、会長に
高木麻由子委員、副会長に重廣悦子委員が選任された。

【報告（1）について】

要旨：令和5年度公民館主催事業の報告及び令和6年度公民館主催事業の進捗
状況について事務局から説明を行った。その後、次のとおり委員からの感
想や意見が出された。

(重廣委員)

水曜日の夜に開かれる「外国人のための日本語教室」を見たが、凄くにぎやかにやっており、公民館の受付とも仲良くなるような、外国人の方との交流があり、とても素敵な会だと思った。

(多田委員)

中央以外の地区館で、家庭教育支援事業のような事業を開催していただくと、公民館の活性化につながるのではないかと思った。

(山谷委員)

今回、子育てサークル代表ということで参加をしているので、家庭教育支援事業では、公民館の方が子育てにとっても協力的で、「子育て航海術」に係わらせていただいたのですが、親子が公民館に来館した際に、安心できるように迎えていただき、託児も付けてくれた。

お母さんが日々、なかなか自分に向き合う時間を取ることが出来ないと思うが、自分自身を深く見つめる時間をとれたり、他のお母さん方と触れ合いながら一緒に子育ての話をしたり、この講座の内容は、もちろんだが、ここで出会いがあったり、自分自身と向きあったり、そういった場になっていることをすごく感じた。公民館の方々の理解と協力と応援を感じる会となった。

【報告（２）について】

要旨：令和５年度公民館主要工事等の報告及び令和６年度公民館主要工事等の進捗状況について事務局から説明を行った。その後、次のとおり質疑応答を行い、承認を得た。

質疑応答なし

【報告（３）について】

要旨：第４２回成田市公民館まつりの開催について事務局から説明を行った。その後、次のとおり質疑応答が行われた。

(長澤委員)

昨年に比べてマイナス１４団体ということだが、減ったのはどういう団体か、どのような理由か。

(事務局)

サークルの数が減っているのです、それに伴い減少という形となったと思われる。

(長澤委員)

ようするにサークル自体の数が減っているということで。では、そのサークルが減っている理由は。

(事務局)

おそらく原因は、コロナウィルスの関係で、高齢者の方が多いのでサークルに集まる人が減っていき、サークル自体が消滅してしまっているのが現状である。

(重廣委員)

先程の参加団体の14団体減少の件だが、コロナ前までの公民館まつりは、公民館の事務局が主体の公民館まつりという形で、開催されていたようである。

私も昨年から公民館まつりに係わるようになったが、公民館まつりの在り方について、「あくまでも公民館まつりというものは、公民館を利用している人達のお祭りをやろう。」と考え方の変更があった。従来の公民館まつりは、発表部門での音響設備の設置や撤収、そしてサークルの発表も、公民館の職員に「お願い」をしていたのを改め、公民館まつりに参加するサークルの方に、自主的にやってもらう形に、昨年、実行委員から、お願いをしたところである。

また、実行委員も高齢化しており、実行委員をやろうという人達が少なくなっている。今年からは、新しいサークルの若い実行委員が参加しているので、実行委員が中心になり、自分たちで公民館まつりを開催していくことになった。

(事務局)

参加団体数が減ってしまうが、盛り上がるように実行委員と共に開催したいと思う。

【その他】

(山谷委員)

私もサークル活動に参加をしているが、そのきっかけは、たまたま出会った人がサークル活動をしていた事による。その人のご縁が無かったら、たぶんサークル活動をしていなかったと思う。

周りのお母さんを見ると、何かサークル活動をしようという発想になっている方が、本当にいないと感じる。

子育てを始めて、サークルを作るという発想が、どこから来るのかということを見ると、今は、誰かが用意した場に行くみたいな感じが、普通になっていると思う。

サークルの数が減っているとの事だが、なかよし広場に行くとか、講座に来てもらうのも大事な事であるが、講座の最後に、自分たちでも毎月1回、このような場を作れるということ、何かPRがあると、そこからサークル活動に、つながるのではないかなと思う。

(長澤委員)

さきほどの市民憲章で、「若い力を育てる」という箇所があったが、成田は、子育てがしやすい街であるという事が広がるのは、すごく重要であると思う。

そういう意味で、公民館が家庭教育支援事業で、子育てを、きちんと追いつけているというのは、本当に大事な事だと思う。

公民館事業では、主催事業がとても重要だが、同時に主催事業から、たくさんのサークルが生まれて来るように援助や支援をするという事は、公民館のとても大事な役割であると思う。

私も子育て講座にかかわった事があるが、講座は、一定の回数が開催されることが大切であると思う。公民館事業の講座の全てに、講師謝礼を付けることは、財政的に厳しいと思うが、例えば、5回の講座であるのならば、そのうちの2回ないし3回は、市民の方たちが自主的に講座を運営する。あるいは、講座を10回にして、あとの5回は、全部、市民の方たちが自主的に運営して、その講座の何回かには、講師謝礼をつけて講師を依頼するなど、いろいろな工夫をすれば良いと思う。

大阪の貝塚市では、公民館が主体となって、子育てサークルのネットワークが出来ている。貝塚市では、出生率が上がり厚生労働省も注目している所だが、成田でも、そのような子育てのつながりが有るのだから、公民館を主体にしながら、子育ての悩みや、いろいろなことを語ることが出来るような、サークルのネットワークが広がれば良いと思う。

6. 傍聴

傍聴者 0人